



神戸新聞

'14.6.18

移動スーパー 愛され快走中

関西福祉大の学生運行1年

関西福祉大(赤穂市)の学生が、軽ワゴン車で上郡町の山間部の過疎集落を回る「移動スーパー」を運行している。住民は月2回、若者と交流しながら買い物をすることを心待ちにし、「なくてはならない生活の一部」との声が上がる。7月で開始から1年。参加する学生たちは「地域の生活を支えている」との手応えを感じ、活動を続ける。(杉山雅宗)

同町社会福祉協議会から過疎集落の意識調査を委託された。困難を抱えつつも、山村の生活に愛着を持つ人々の思いに伝えるため、ゼミ生と話し合って運行を始めた。

過疎の4集落へ月2回

高齢住民ら心待ちに

「トライアングル号」が到着すると、住民らが続々と集まる。この日訪れた学生は4人。「おばあちゃん元気でしたか?」「元気がよ。最近暑いね。」物に楽しさを感じ、感謝の言葉を交わす。片手に学生たちの笑顔が弾む。自宅から約2時間か

同大社会福祉学部の溝端剛教授(58)のゼミ生19人が、県の助成を得て活動する。巡回するのは上郡町北部の山間に点在する計4集落。同町中心部のスーパーで生活雑貨や食料品を購入し、そのままの値段で販売する。5年前、溝端教授が

上郡の山間部



集落で店舗を構える移動スーパー。お年寄りが数日分の食料を買い求めた上郡町大富(撮影・大森 武)